

2020年7月

2020年の読書運動は「癒し」がテーマです。新型コロナウイルスにより、全世界が不安・恐怖・悲しみなどで疲弊してしまっている人々が多いと思われます。癒しというテーマの本をご紹介できることで、みなさんの心の負担が少しでも軽減されると嬉しいです。

暑さに弱く寒さに強い動物。白黒の毛で覆われていて可愛らしい姿を見せてくれる、パンダ。神戸市立王子動物園の唯一存在するパンダのタンタンが、今年7月で中国に帰ることになっています。ただ、新型コロナウイルスやこの暑さなどで帰る時期を調整しているようです。とはいえ、タンタンに会えるのも残りわずかです。今まで人々に愛くるしい表情を見せて癒してくれました。今までの感謝を込めてタンタンが載っている『パンダ写真集 コウコウとタンタン』 中村翔子文 神戸市立王子動物園写真・監修 BL出版 2001 をご紹介したいと思います。

この本に出てくるタンタン（メスのパンダ）とコウコウ（オスのパンダ）は、どれも愛くるしい表情ばかりです。思わず微笑んでしまいます。この写真集はもちろん見ただけで癒してくれます。巻末には、「知っておこうパンダのひみつ」が載っています。白と黒の毛で覆われている理由は？目のまわりが黒い訳は？の答えが分かります。ちなみに、しっぽは何色だと思いますか？……実は黒色ではなく、白色なんだそうです。

タンタンはコウコウと一緒に、震災後の神戸を元気づけるため、2000年7月に日中共同飼育繁殖研究を目的に王子動物園へやってきました。のちに、コウコウは2002年12月に中国に返還となり、二代目コウコウが入れ代わるかたちでやってきます。しかし、この二代目コウコウは2010年9月に亡くなってしまいます。そのため、タンタンは10年間一人ぼっちで過ごしてきたこととなります。他のパンダがいないので、今まで寂しい思いをしていたかもしれません。

飼育員さんは、健康管理・えさの準備・パンダ館の清掃だけでなく、毎日24時間分の録画ビデオをチェックし、パンダがいつどこで何をしていたかを細かく解析しています。ちなみに、パンダは、14時間くらい寝て過ごしているそうです。

2019年度に参加したバックヤードツアーは、奇しくもパンダ舎でした。といっても、バックヤードツアーではタンタンには会うことはできませんでした。でも、タンタンのうんちの匂いを嗅ぐことができるという貴重な体験をすることができました。匂いは、むしろ笹のいい香りだったのを覚えています。飼育員の方々が毎日大事に育ててくださったおかげで今までタンタンに会えることができたことは、決して忘れてはならないと感じています。

中国に帰るまでには、王子動物園に行ってタンタンを見たいと思っています。しかし、現在は抽選に当たらないとタンタンに会えないので、運にお任せしないといけません。そういう意味では、こちらの写真集だと確実にタンタンタを見ることはできます。

私は、「岩にもたれていい気分のタンタン」の写真が何とも言えない可愛らしい表情でお気に入りです。みなさんもタンタンの写真を見て癒されてください。そして、タンタンのお気に入りの写真を探してみませんか？

